

- 近年、食品安全確保の一つとして国がGAPの取り組みを求める動きが加速化している。
- 近年、新規就農者に対する各種施策が展開されたことから、新規就農者は増加傾向にある。
- 「次世代リーダーの育成」を目的に、農業青年クラブ及びクラブ員を対象に、新たな手法でGAP実践支援に取り組んだところ、「GAPに関する理解促進」及び「自発的な改善意欲の醸成」、「モデル農家の育成」に繋がった。

具体的な成果

1 GAP規範への**気づき**

農業青年クラブを対象に、各栽培時期に合わせて、GAP規範を講習するとともに、意見交換を重ねたことにより、GAPがより身近なものとして認識させることができた。



写真:GAP講習会の様子(講習・意見交換)

2 **自発的な改善意欲**の醸成

農業青年クラブを対象とした集合講座を通してGAPへの理解が進み、自発的にGAPに取り組みたいというクラブ員が現れ始めた。

3 **モデル農家**の育成

毎年、モデル農家を選定し、農場評価を実施。評価結果に基づく改善ポイントを項目毎に説明し、改善可能な項目のすり合わせを行い、具体的な改善目標を設定することで、改善意欲の向上及び着実な改善を支援し、モデル農家(3戸)の育成を図った。

また、クラブ員の中には、「良い農業の実践～GAPへの取り組み～」と題しプロジェクト発表大会に参加する者や、グローバルGAPレベルにチャレンジする者もあり、地域の「**次世代リーダー**」に成長している。

普及指導員の活動

平成29年度

- 農業青年クラブ(組織)に対し、各栽培時期に合わせた「**GAP規範**」資料を作成し、講習及び意見交換を実施。
(各講習のボリュームを少なくし、できるだけ参加したクラブ員の意見を聞くように心がけた)

表2:講習会内容

| 実施月 | 栽培時期 | 講習内容 | 項目数 |
|-----|------|------------|-----|
| 8月 | 栽培前 | ほ場全体に関すること | 13 |
| 9月 | 栽培初期 | 農薬関係 | 6 |
| 10月 | 栽培中期 | 資材管理 | 5 |
| 11月 | 栽培後期 | 衛生管理 | 7 |
| 12月 | | 新設項目補足 | 3 |

平成29～令和2年度

- 対象となる組織の中から、GAP実践に意欲を示したクラブ員を**モデル農家**として、リスク評価を実施。
評価結果については、単なる結果伝達にならぬよう「評価ポイント」や「改善ポイント」を具体的に示すことでより認識できるよう心がけ、自主的な改善に繋がった。

普及指導員だからできたこと

- **農業青年担当**が組織やクラブ員との連絡役、**GAP担当**が講習資料の作成や農場評価・改善支援の推進役、**野菜担当**が栽培に関する指導役と、班を超えて所内で連携しながら、**有機的**にGAP実践支援に取り組むことができた。

活動期間：平成 29 年度～（継続中）

1. 取組の背景

近年、GAP の取り組みを重点化する情勢を受け、南部農業改良普及センターではこれまで地域への GAP 実践の波及効果を狙って「意欲があり、中核となる農業者」を対象に

① GAP 概論（概念）の講習・説明

② 農場評価、評価結果伝達、改善指導

を実施してきた。この方法だと、農家の「気づき」を一定程度引き出せるが、農家の経験則もあり「改善意欲」を上手く引き出すことができなかった。

また、近年、新規就農者が増加傾向にあることを踏まえ、農業青年へもアプローチを行ってきたが、「GAP 概論」は内容的にボリュームが多いことから、経営が安定していない若手にとって「生産量・出荷品質の向上」が優先であるとのことで敬遠されていた。

しかし、GAP 認証が本格化する前に段階的に GAP 実践に取り組み、各生産者の農業管理を底上げする必要があった。

2. 活動内容（詳細）

「次世代の地域リーダー育成」を目的に、GAP 実践支援手法を南城市農業青年クラブに対して組織活動（GAP 取組項目に関する講習）と同クラブからモデル農家を選定し、現状のリスク評価（農場評価）とその改善に向けた取組を通して、リスク回避に向けた「気づき」と「改善への意欲喚起」を促した。

なお、農業青年クラブの選定にあたっては、

① クラブ員の多くが野菜栽培農家であること

② 特別栽培やエコファーマー等に取り組んでいるクラブ員が多いこと

を条件に選定し、モデル農家の選定にあたっては、組織への GAP 講習を通して GAP 実践に意欲を示した農家を選定した。

【組織支援】

（平成 29 年度）

概論に関する講習は行わず、秋からの栽培開始に向けて、「GAP 規範」資料を普及独自で作成し、各月の作業内容に合わせた項目ごとに 8 月から 5 回に分けた講習を実施。講習時には、各項目についてクラブ員と意見交換しながら、より現実的な取組として認識できるよう工夫した（講習は同クラブの定例会に実施）。（表 1）



写真 GAP 講習会の様子（講習・意見交換）

表1：GAP講習会内容と項目別の理解度・実施度

| 講習時期 | GAP講習項目 | 理解度 (%) | | | | 実施度 (%) | | | |
|---------------|----------------------------|---------|----------|---------|-----|----------|-------------|--------|-----|
| | | 理解できた | 理解できなかった | もっと知りたい | 未記入 | すでにやっている | やりたくない・できない | 今後やりたい | 未記入 |
| 8月 【栽培前】 | ①畑の位置、面積 | 86 | 0 | 14 | 0 | 57 | 0 | 43 | 0 |
| | ②畑やその周りからの汚染防止 | 71 | 0 | 29 | 0 | 29 | 0 | 71 | 0 |
| | ③無登録、期限切れ農薬 | 86 | 0 | 14 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | ④堆肥に関すること | 86 | 0 | 14 | 0 | 29 | 0 | 71 | 0 |
| | ⑤肥料に関すること | 86 | 0 | 14 | 0 | 14 | 0 | 86 | 0 |
| | ⑥肥料、農薬の使用履歴 | 86 | 0 | 14 | 0 | 43 | 0 | 57 | 0 |
| | ⑦機械、器具の取り扱い | 86 | 0 | 14 | 0 | 14 | 0 | 86 | 0 |
| | ⑧収穫物の調整施設の衛生 | 86 | 0 | 14 | 0 | 14 | 0 | 86 | 0 |
| | ⑨廃棄物の処理 | 88 | 0 | 12 | 0 | 50 | 0 | 50 | 0 |
| | ⑩畑からの土壌流出 | 88 | 0 | 12 | 0 | 38 | 0 | 62 | 0 |
| | ⑪使用する水質 | 75 | 0 | 25 | 0 | 25 | 0 | 75 | 0 |
| | ⑫健康診断、保険加入 | 88 | 0 | 12 | 0 | 38 | 0 | 62 | 0 |
| | ⑬手洗い、トイレ | 88 | 0 | 12 | 0 | 25 | 0 | 75 | 0 |
| 9月 【栽培初期】 | ①農薬と他の防除手段を組み合わせた防除 | 100 | 0 | 0 | 0 | 17 | 0 | 83 | 0 |
| | ②安全作業のための服装や保護具の着用 | 100 | 0 | 0 | 0 | 17 | 0 | 83 | 0 |
| | ③適時適切な防除の実施 | 100 | 0 | 0 | 0 | 17 | 0 | 83 | 0 |
| | ④防除器具等の十分な点検と洗浄 | 100 | 0 | 0 | 0 | 33 | 0 | 67 | 0 |
| | ⑤農薬の使用残の発生防止 | 100 | 0 | 0 | 0 | 50 | 0 | 50 | 0 |
| | ⑥農薬散布時における周辺作物・住民等への影響の回避 | 100 | 0 | 0 | 0 | 17 | 0 | 83 | 0 |
| 10月 【栽培中期】 | ①危険な農作業等の把握及び改善 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| | ②農薬・燃料の適切な管理 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 80 | 0 |
| | ③肥料の管理 | 100 | 0 | 0 | 0 | 40 | 0 | 60 | 0 |
| 11月 【栽培後期】 | ④生産資材の使用履歴等の記録と保存 | 100 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 80 | 0 |
| | ⑤作物残さ、廃棄物排出の低減 | 100 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 80 | 0 |
| | ①農産物の取引等に関する記録の作成・保存 | 75 | 0 | 25 | 0 | 25 | 0 | 50 | 25 |
| | ②作業者の衛生管理と健康管理の徹底 | 75 | 0 | 25 | 0 | 0 | 0 | 75 | 25 |
| | ③収穫等に使用する器具類の衛生的な管理 | 75 | 0 | 25 | 0 | 0 | 0 | 75 | 25 |
| | ④収穫・調整・選別時の汚染や異物混入防止 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 75 | 25 |
| 12月 【栽培後期】 | ⑤安全で清潔な包装・出荷資材の使用と青果物の温度管理 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 75 | 25 |
| | ⑥栽培・調整・出荷施設の衛生管理 | 100 | 0 | 0 | 0 | 25 | 0 | 50 | 25 |
| | ⑦衛生管理内容の周知と記録の保管 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 75 | 25 |
| | ①フードフェンスへの対策 | 100 | 0 | 0 | 0 | 17 | 0 | 83 | 0 |
| | ②農場内でのエネルギー使用量の節 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| ③より快適な環境の整備 | 100 | 0 | 0 | 0 | 34 | 0 | 66 | 0 | |

【モデル農家支援】

- ・現状把握：GAP 指導員育成を兼ねて、農場評価を実施。
- ・結果通知：チェック項目毎に、リスク評価結果の理由を詳細に説明。
- ・改善目標：リスク評価結果に基づく改善ポイントを項目ごとに説明し、どこまで改善できるか具体的に検討。
- ・再評価：モデル農家と一緒に改善を行った後、再評価を実施。

(平成 29～令和 2 年度)

毎年、モデル農家を選定し、農場評価を実施した。複数の普及指導員（GH 評価員他）による農場評価には 1 日を費やし、午前には農家聞き取り及び現場確認、午後は評価結果の検討を行った。

後日、モデル農家に対して評価結果に基づく改善ポイントを項目毎に説明し、改善可能な項目のすり合わせを行い、具体的な改善目標を設定することで、改善意欲の向上及び着実な改善を支援し、モデル農家（3 戸）の育成を図った。

具体的には、農薬保管庫の設置（農薬流出時のトレイ及び吸着材の設置含む）、出荷用コンテナの整理、資材置き場の整理・整頓、農薬空容器入れの製作、手洗いの設置、蛍光灯への飛散防止カバーの装着、燃料の安全な保管（消化器設置含む）、各種作業における手順書の作成及び掲示等多岐に及んでいる。

また、クラブ員の中には、「良い農業の実践～GAP への取り組み～」と題し、沖縄県青年農業者会議プロジェクト部門に出場する者や、グローバル GAP レベルにチャレンジする者もあり、地域の「次世代リーダー」に成長している。



プロジェクト発表の様子



グローバル GAP 模擬審査

以下に、モデル農家の改善事例を紹介する。

【Before】 農薬保管状況



農薬保管状況
・分類なし
・施錠なし

【After】 農薬保管庫設置



- ・施錠できる保管庫設置
- ・液剤、粉剤、展着剤等に分類、トレーに保管
- ・燃料保管あり、消化器設置

【Before】



・むきだしだった出荷用コンテナ

【After】



・カバーをかけて保管

【Before】



・むきだしだった資材置き場

【After】



- ・不要になったタイベックで資材置き場にカバーをかけた

【Before】



・外に農薬空容器が放置

【After】



・農薬空容器入れを製作

【Before】 出荷調整場



・手洗い場なし

【After】



・手洗い場を設置



3. 具体的な成果（詳細）

これまでの GAP 実践支援では、「GAP 概論」の周知と「農場評価結果に基づく改善支援」に取り組んできたが、「自発的な改善意欲の醸成」には至っていなかった。今年度、新たな支援手法で支援した結果、下記の感想・農家の変化が得られた。

【組織支援】

GAP 規範講習後に各項目について、事例等も交えた意見交換を実施した結果、より具体的なものとして認識され、「これならできるが、これは厳しい」等の意見が聞かれ、現実的な取組として必要性とともに認識させることができた。

【モデル農家支援】

農場評価の各項目について、より具体的に「改善ポイント」を示しながら、改善の可否について意見交換を行ったところ、「気づき」とともに「自発的な改善意欲」が聞かれた（改善目標を設定）。評価を行った作物の終了後に再評価の申し出があり、実施したところ、目標にはわずかに届かなかったが GAP 実践（改善）に取り組んだ「達成感」が得られる評価結果となった。

4. 農家等からの評価・コメント

【南城市農業青年クラブ員】

GAP 規範講習時の意見交換の中で、『より現実的・具体的な「管理手法」として必要性も併せて、認識することができたが、まずは、生産が安定してから...。』との意見が聞かれた。

【モデル農家（T氏）】

リスク評価結果に対する各項目の「改善ポイント」の講習とともに、意見交換したところ『これまで両親や地域の先輩農家の背中を見ながら、「追いつけ、追い越せ」の想いで農業に取り組んできて自分なりに自負があったが、今回、実際に農場評価を受けてみて「農産物＝食品」という意識が低かったことに気付かされた。具体的な改善ポイントが示されたことで、現実的な改善目標が立てられた。各項目の改善は、それほど困難ではないと感じたので、1年後を目標に取り組めるところから取り組みたい。』との意見が聞かれた。

再評価の際には、『栽培しながらの改善は正直大変だった。再評価の結果、予想以上の評価が得られたので苦勞が報われた。残りの改善点についてもできるところから取り組みたい。』との意欲が聞かれた。

また、『取り組みの苦勞などを共有できる人が増えてほしい。』とクラブ内での波及を希望していた。

【モデル農家（O氏）】

これまで後回しになっていた資材、工具や機械類の配置、作業場の整理整頓に取り組めたことで、作業効率や安全性が高められた。

取り組んだ内容は、リスク評価結果から浮き彫りとなった「具体的な改善ポイント」を重点的に実践した。農繁期ではあったが効率よく改善できた。

また、多くの従業員を抱えており、以前から働きやすい職場環境づくりに着手したいと考えていたが、改善後に従業員からは「作業場が整理整頓され作業がしやすくなった」との声が聞かれ、GAP 実践に挑んで良かった。特に農薬空容器の保管場所の設置は、取り組んで良かった内容の一つで、是非、他の農業者にも取り組んで欲しい。

5. 普及指導員のコメント

モデル農家 O 氏は、親の経営を継承している次世代リーダーである。今回は、農業青年クラブ員での GAP 規範講習を得ての「GAP 実践」であった。先代から受け継いだ古い農薬保管・機械等倉庫や出荷場等を工夫し使用していたが、改善ポイントを具体的に示したことで、モデル農家の改善意欲を高めることができた。GAP 実践した結果、働きやすい職場環境となり、効率的な生産活動に繋がったのは明らかである。

普段の農作業の中で GAP と認識せずに取り組んでいる農業者も多く、「既に GAP に取り組んでいること」を気づかせることで、更なる改善意識が芽生える農業者がいる。農業者に応じた GAP 推進となる支援を行っていきたい。（普及企画班・主任技師）

これまでは、GAP 概論の講習と農場評価結果に基づき、高リスクな項目について改善を促す手法を用いてきたが、「自発的な改善意欲」の喚起には至っていなかった。

今回は「次世代の地域リーダー育成」を目標に、より現実的なものとして認識しやすい講習方法（内容・時期）に取り組むとともに、農場評価結果の伝え方として、「気づき」と「改善意欲の醸成」を目指してチェック項目ごとに「評価ポイント」や「改善ポイント」を作成し、具体的に伝えるよう取り組んだ。これらの作業には多くの時間を要したが、支援した農家から「取り組んでよかった。」との声が聞かれた。今後はこの GAP 実践指導の手法を活用し、モデル農家の育成を進めると共に、点から面へ広がるよう GAP 推進に取り組みたい。（地域特産振興班・班長）

6. 現状・今後の展開等

今後は、引き続き同クラブや他組織に対して、農場評価・改善に意欲のあるモデル農家を支援し、GAP 実践に取り組む農家を育成する。また、意見交換や更なる意識向上ができるよう支援するとともに、これらの取組を他の青年クラブにも波及させ、GAP 実践に取り組む「次世代の地域リーダー」育成に繋げたい。